

## 平成 30 年度 学内研究助成金 研究報告書

研究種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input type="checkbox"/> 21 世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input checked="" type="checkbox"/> 21 世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	グローバル人材育成を目指す留学プログラムの構築 —近畿大学生は留学を通して何をどのように学んだのか—	
研究者所属・氏名	研究代表者： 生物理工学部・服部圭子 共同研究者： 国際学部・酒匂康裕、医学部・武知薫子、語学教育センター・高橋朋子	

### 1. 研究目的・内容

本研究は、異文化体験プログラム（短期・長期留学、学内外の国際交流活動等）に参加した学生の学びを、学部横断的に観察・比較することにより、近大学生の行動変容を可視化することを目的とする。これは、近畿大学の国際交流プログラムにおける普遍的な学びの解明や、今後のプログラム構築、そして自己診断尺度の開発にも貢献する基礎研究にもなる。

### 2. 研究経過及び成果

近畿大学生物理工学部、国際学部、医学部、語学教育センターに所属するメンバーが、各の部署から留学プログラムや海外研修に参加した学生らを対象に研究を行った。留学で得た学びとその発展性・継続性、交換留学後の再留学の有無について質的調査を行うとともに、出発前後の学生の EQ(Emotional Intelligence of Quotient)の変化を分析し、留学での行動変容を量的にも検証した。

1 年間の長期留学経験者が交換留学にて再留学することについては、「韓国人との交流」「学習欲」「将来」の 3 点からイメージしており、より深い知識習得への挑戦という自己成長を目指す姿が報告された。

また、留学した学生の帰国後の観察からは、留学前は単に「語学を学びに行く機会」だと捉えていたものが、留学経験を通して「自分の視野を広げる成長の場」へ捉え直され、「留学先とは異なる言語に関心を持つ」などの意識を得ていることが明らかになった。友人や交流相手の存在、大学授業、ほめや励ましが学びを支えた要素となっていたが、自己達成も大きく影響を与えていた。

理系学部の英語が苦手な学生も、留学経験から、コミュニケーションの大切さや日本人性に気づき、英語力の向上を実感し、英語に対する寛容性や、複言語意識が芽生えてきた。積極的態度を志向するようになり、外国人に対する意識の変化が生まれたことも観察された。そして、留学後、さまざまな他の行動に発展させたり、自身のキャリアの具体的なイメージを獲得していくことがわかった。

量的分析では、留学が EQ の活性化に繋がり、ストレス管理のスキル向上が顕著であることが明らかになった。しかし、問題解決のスキルにはあまり変化が見られなかったことから、問題解決能力の育成は、今後の海外派遣プログラムにおける指導上の課題となった。

4 つの異なる部署から学生の学びを観察したが、それらをいかに発展させ継続させていくかについては、事前・事後研修の充実や、学部・部署間の連携、他団体との交流などを視野に入れて、より有意義なプログラム構築とともに考えて行く必要がある。

### 3. 本研究と関連した今後の研究計画

研究チームのメンバーは、近畿大学「クラスター・コア：知の創造」による研究「グローバル人材育成のための教育プログラム開発：異文化コミュニケーションの能力の育成を目指して」に携わっている。当該の研究では科研費研究とも連携し、韓国への長期留学生を対象に分析を行っている。本研究で分析した留学生の学びやその継続性についての結果も踏まえて、学生の学びの過程を、より詳細に分析・記述・考察していくとともに、真のグローバル人材育成教育、学生のキャリアパスに繋がる自律的評価の指標作成、および複数学部が連携した国際交流プログラムの構築を見据えた研究に発展させて行きたいと考える。

### 4. 成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
日本国際理解教育学会	口頭	2018年6月17日
グローバル人材育成教育学会	ポスター	2019年2月9日